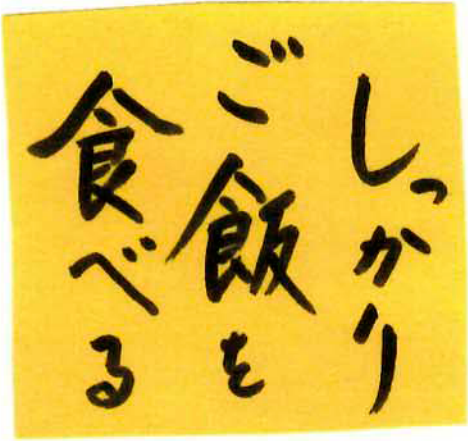


心に響く言葉



新米が出来上がる良い季節だ。新米を炊いたときの、おしきと香りは格別。ピカピカに光って一粒一粒立っている。よく噛めば、お米の旨みか口中に広がる。

新米というように、このかたのなすかなり、飯田菜、孫、白いご飯が大好物。ふりかけなど、好きな白いご飯の旨みを知っている。味の消化を助けるだけでなく、脳に良い刺激とミネラル、ビタミン類で暮らして何より幸せ。お米は元気の源ですね。

# お茶の時間



シユカツと聞いて驚く祖母たち。学生によるサラーマン川柳の一句だ。シユカツとは学生たちの就職活動の略、と当然のように思っていたが、どうやら最近では、高齢者向けの、身の始末、終活の事を言うようになったらしい。

電話販売で有名なジャパンネットカクワの社長は、117歳まで生きたと、屈託なくインタビューに応じていた。まだ50年近く前からや作のことをどんどんやる！とか。大らかに生きたい。終活なんて言葉、誰が考案の?!

## ゆいもの みつけ!

夏が終わると、一息つくし何やらまわりの汚水が気になりだした。年末まで、とりあえずの掃除でもするか。どミカのTV番組でブラシが役立つと紹介していたので、100円ショップで網戸用に洋服ブラシを、お風呂の床用は洗車用の柔らかいブラシをホームセンターで購入した。

網戸は外さずそのままブラシかけ。埃がどんどん落ちていく。掃き手に回転ブラシが付いているので、左右どちらの方向も簡単に使える便利。水をかければ、そのままだと落とす。ビシッとした後は掃き掃除(終わり)。短時間の作業で済ませたい。



持て手の白いホタテを押しつぶす。クルッと回転。

入浴後、洗車ブラシで床掃除。掃き手の長さが邪魔にならない。掃除の好み、汚水も浴槽の湯でまあるまある落とす。洗車ブラシで体を石けんで洗ったあと、このブラシで床を洗うだけでも結構きれいになった。

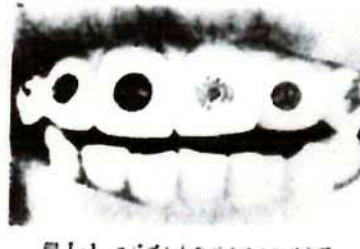


ひどい汚水に悩む前に、掃除の楽な方法。わかってるけど、これを出さない。

## 歯のよもやま話 第三十九話

### 歯科の技術・工学 歯を削る 三

私が歯科大学に入学し三年生になって初めて歯科の講義と実習を受けました。当時は入学した最初の二年間は、国府台(こうのだい)牧場で放牧されていて(千葉県市川市国府台に大学の教養部がありました。医学の医の字も、歯科の歯の字の勉強もしませんでした。いい時代でした。



初めて歯科治療の実習を受けた実習室の戸棚に、エジプトから発掘されたミイラの顎の複製標本が飾ってありました。その標本の歯には宝石が埋め込まれていました。はて、今から数千年前にあの硬い歯をどうやって削ったのでしょうか。大変興味を持ちました。今ならデジタルカメラですぐ写真を撮ったのですが、なにしろ五十年以上前のこと。当時はフィルムカメラの時代でしたし、暗い実習室でしかも学生の分際で、写真を撮ることなど思いもよらずそのままになってしまいました。あの標本はどうなつてしまつたのでしょうか。幸い、教科書にのぼった白黒写真が有りましてので掲載します。

我が国でも縄文時代や弥生時代の遺跡から穴を開けたヒスイや硬玉の珠(たま)が発掘されます。穴を開ける道具は、実は竹や軟らかい木の棒です。この先に硬い砂や削って出てきたヒスイの粉などをつけてこすっていきます。こする

には、能率を上げるため弓の弦を使ったようです。

新潟県長岡市の東に広がる信濃川の広い段丘上に縄文時代の馬高・三十稲葉遺跡が有ります。昭和十一年(1936)から近藤篤三郎により発掘されたのが「火焰土器」(重要文化財)です。雪国の縄文の勢いを感じるすばらしい造形です。その後十日町市の笹山遺跡から同様の形態の土器がたくさん出土し、記録も十分で、こちらは新潟県最初の国宝に指定されています。でも名称は「火焰型土器」といいます。岡本太郎がこれを見て「なんだコレは!」と叫んだという話が残っています。こうした五千年前の、特異な形態の土器は信濃川の流域からのみ出土しています。内部には食物の焦げがこびりつき実際に煮炊きに使用されたことがわかっています。日常の使用には煩雑ですから、お祭りにも使つたのでしょうか。歯に穴を開けるといふ話から脱線してしまいました。まあたまにはいいか。



穴の開け方 馬高縄文館



穴の空いた珠 馬高縄文館 長岡市



火焰土器 馬高縄文館

子田晃一



嬉しいことが

「これが歩道か」という記事を掲載してから5年。ある日、役所の方が訪問され、近々歩道の拡張工事をするとの報告を受けた。短い距離の拡張であり、早朝行方ので、診療所出入りの迷惑はかかるとのこと。思ったが、思いがけないお知らせに、ビックリするやら嬉しいやら。

数ヶ月立ち工事が始まった。当初の予定より距離が長くなったようで、日中の工事に変更。誘導係が立つが、多少の不便を承けらる。建設会社の担当者も改めて、日程と定回持参で挨拶にみえた。

車道を、ガードのある広い歩道側に寄せ、側溝が歩道だった箇所を確保した。ここは福祉タクシー。近頃は目の不自由な方も集う施設もあり、高齢の杖を必要とする高齢者さんたちにも優しい、今までの倍の広さの歩道の完成を心から嬉しく思う。走行速度も30キロ制限、と大きく車道に表示。幅広の歩道になり、人の姿は、さきり見えるようになったのか、車の速度も心せしがダウンし、ようやう甘やかす。



これが歩道か

2013年10月掲載「これが歩道か」ポコポコの穴だらけの側溝の上を、用心ながら歩いた。聖園病院前では足が滑り骨接合人もいたと。



どの位広がるのかな？、薄く線が引いてある所まで？。黄色の建物は福祉会館。この道路は、覆面バスか？！が走っているって聞いたけれど？！



壊れれば分の側溝の7分25分でもO.Kの金属のものに取りかえた。



すき間部分は、あとでコンクリートで固定してくれた。

「今の歩道の幅」と、軽く両手を広げて説明する大先生。自宅の前庭側で。



工事前の側溝アタ。→

バス停の引き込み場所の側溝の7分は、重さに耐えられず何回も交換。前にコンクリート固めた。これで「ほぼ」大丈夫らしい。



平らの歩道になって歩きやすい。



白い、側溝部分が歩道だったか倍に広がった。



診療所バス停前から完成した歩道を眺めると。

いいなこの本



失敗図鑑 大野正人 著者 大野正人 発行 文響社 (児童書) 価格 1200円+税

危ない!! 用心を

東芝に住む10歳の孫が母親と本屋で待合室で買った本の一枚だ。大人にも楽しい。毎日誰かが読んでくれる。本を開くことは楽しいことだ。偉人、有名人の失敗から学び、成功に導くことの大切さを伝えている。30年以上、欠かさず取り寄せている。福音読書会だ。果にたてふふと毎日創刊号から読む。果にたてふふと再会し、資料が満たされる。暮らした本は欠かさない。長年の読書タイムは睡眠前の楽しみ。長年の読書タイムは睡眠前の楽しみ。長年の読書タイムは睡眠前の楽しみ。

月のつばやき

年賀状の購入申込み用紙を、いつも利用している郵便屋さんか持参。もうそんな季節か？。気付けば10月だ。早い、早い、早い。年賀状はどうしようかなあ。毎年、新年に賀状を書く。投函してホッとする。この繰り返し。今年が最後の賀状です。という。年賀状を交付取りと前年の議長。お付き合いは大切、人との関わり合いは大事。そう思いながら、また。躊躇って書きこむことになるだろうなあ。

報抄ぞ知った。我が家はポストが近くにあって便利。コンビニにもスパーマーケットにも設置されているのを助かっている。しかし、手元のスマホで、便利も、注文も、予約までできる時代に、ハカキや封筒を買って、切手を貼って投函、面倒に思う。ホストの数が減った今、先細りは仕方ないか。先日、患者さんが「携帯メールより手紙を言え出すほうか好きだわね」と、家の近くにポストが全然なくてと話された。ケーシングの時、町内のポストの無さに気付いてたが、電話ボックス同様、いつの間にか、消えたものの、ひとつである。便利なものが増えれば不便も減る。